

令和5年度修了式 式辞

おはようございます。本日は体育館での修了式です。実は体育館で修了式を行うのは5年ぶり、令和になって初めてです。皆さんの顔を見ながら一年間を締めくくれるのは平成以来、当たり前のことではないのですよね。体育館でできて良かったです。

今日は2つの話をさせて下さい。

一つは、世の中、変化の激しい時代を言い残るために、とよく言われる話ですが、この4年間でもどのくらい変わったかという話です。4年前の修了式の話は今、読んで見ます。

令和元年度 終業の日 メッセージ

本来なら本日は終業式、1年の振り返りを学校で行うはずでしたが、残念ながら新型コロナで学校が休業となり式を行うことができません。しかし、大切な節目である事には変わりありません。ホームページでのメッセージとなりますがお話をさせて下さい。

1月8日の始業式、コロナのコの字もなく、当たり前のように1年の最初の話をしました。行くに決まっている語学留学の話、あるに決まっているオリンピックの話、そして活動するに決まっている部活動の話。その後、あれよあれよという間にコロナウイルスが広がって、語学留学も部活動も中止、学校も休業、オリンピックも危なくなっています。当たり前が通用しない時代とよく言われますが、本当にそうなることを知りました。様々な情報が飛び交い、混乱の日が依然続いています。一方で皆さん、授業を無料放映するネットが出てきたり、テレワークや時差出勤など、新しい働き方も出てきています。こういう時に、自分をしっかりと見つめて、何を考え、何を選択し、どう動くかで、その後の人生が変わってきます。一生に一度かもの、(いや今後もこういうことはどんどん起こるでしょう)この試練をぜひ前向きに捉えて行動してほしいと思います。力がぐんとつくチャンスかもしれません。幸いなことに、条件付きで春休みの部活動が再開する動きも出てきました。試練を越えて、たくましく成長した皆さんに会える日を本当に楽しみにしています。

1月の始業式の最後に話しました(今となっては遠い昔のように思えますが)、年末のダウタウンの「絶対に笑ってはいけない青春ハイスクール」のエンディング時、パフィの替え歌の前に出演者がボードを挙げて語ったエピソードを繰り返してお伝えして、終業の日のメッセージと致します。一年間お疲れ様でした。これかも、これからこそ頑張りましょう。

これが私の生きる道

人生は山あり谷あり

どんな逆境も

理不尽だと思ふ事も

じっと我慢をして
焦らず 落ちついて
きっといつかは 乗り越えていこう
過去を振り返らず
みんな仲良く手を取り合って
前を向いて生きていこう
それが君たちの生きる道だ

実際にはコロナが5類になるまで3年半かかりました。本当にこの4年間で、時代が大きく変わりました。この、「これが私の生きる道」の替え歌は、コロナ前の歌で、まっちゃんが、当時騒がれていた吉本の闇営業問題で、干されてしまった宮迫を励ます歌だと言われていましたが、まさか年末の「笑ってはいけない」もこの年が最後になって、しかも松本人志さんもあんなことになるとは、時代というのを強く感じます。当時、県立ヘイポーお豆が丘高校が舞台で登美丘高校みたいやなと思いました。 本当に遠い昔の話です。

はい、時代は変化する。強く生きないといけないという事を言いたかったのが一つです。そしてもう一つ。実は僕は5年任期の校長で、この3月で5年が経ち、登美丘高校は最後になります。そこでもう一つだけ話させてください。

僕は平成31年（令和元年）4月に着任したんですけど、その一学期に、当時いらっしゃった全ての先生に、「登美丘の生徒に付けて欲しい力は何だと思われますか？」と伺って回りました、皆さんに付けてもらうべき力が知りたかったのです。そのお話を伺って、先生方と相談して、令和2年に、育成すべき生徒像を策定しました。ホームページの校長挨拶に掲載しているのですが、あいさつ文も4月には変わりますので、読ませてください。

令和2年度の学校経営計画から、育成する生徒像を策定しました。

主体的で挑戦心にあふれ、且つ、思いやり・気配りのできる生徒です。

主体的な挑戦心と思いやり・気配りを両方持つのは実は至難の業です。なので且つという言葉に想いを持っています。

○挑戦する強さ

うまくいく保証もないし、今の自分の力では届かないかもしれないけど、自分を信じて、自分を支えてくれている人たちを信じて前に進む。壁にぶつかるしんどさや、自分の非力さも身に染みてわかっている。だから同じように弱さを自覚している他者のことを信じる事ができるし、掛け値なく応援できる。

○本当の優しさ

調子の良い時、いい感じの時は、極論どんな人が隣にいたとしても、楽しいし上手くいくもの（みんな優しくていい人に見える）。でも耐えがたいどん底にいる時に、一緒にいたいと思う人・この人がいれば大丈夫だと思う人は、どん底にいることも自分の弱さも受け入れてくれて（それが特別なことだとも思っていないようで）横に並んで一緒に歩いてくれるだけでなぜか安心できるような人。こちらから求めなくても、勝手に自分の意志で、さりげなく行動を起こしてくれるような人。

「登美高生は『強いから優しい』＝「挑戦する強さがあるから、人を包む優しさを持てる。登美高生にはそういう子が多い」と言われることを願っています。

最初に紹介した 4 年前の修了式からの変化のように、これからも変化を余儀なくされることは絶え間なく訪れると思います。

どうぞ、強いから優しい・・・

「耐えがたいどん底にいる時に、一緒にいたいと思う人・この人がいれば大丈夫だと思う人」になってほしいと思います。よろしくお願いします。

先生たちも、力の限り応援してくれます。きっと大丈夫だと思っています。

教職員の皆さんとは 5 年間、生徒の皆さんとは 1 年。もしくは 2 年間お世話になりました、ありがとう。

創立 101 年目の登美丘高校生活 頑張ってください

2024 年 3 月 15 日 校長 山本哲哉